



どこからか、香り漂う金木犀

二〇二〇東京オリ・パラリンピックも無事終わった。大会実施に当たっては賛否両論がマスコミに大々的に言われたが結果はどう評価されているのだろうか。私人としては本当に感動を覚えた。それでも中には批判的な見方をする人がいる事も事実であろう。ただアスリートの姿勢・言動を見た時、本人達は大会を開いてもらった事への感謝と、自分を支えてくれた廻りの多くの人々へのお礼の気持ちを伝える言葉が多かったし、「自分達の姿勢が国民に勇気・希望・感動を与える事が出来たか」と言っているのには、本当に有難うと言いたいし、国民の多くが良かった良かったと思っているのではないだろうか。アスリートは勝負には一歩もひかない強い意志をもって希んでいるが、これは己に対してであり、外に対しては謙虚であったり寛大な気持ちでの表現が多く実に清々しかった。

さて、今注目のコロナ緊急事態宣言が21都道府県に出されているが実に残念である(こういう状況にあるという事が)。ただ評論家・マスコミは政府の対応の批判ばかりが目につくようであるが、結果論からの批判は誰にでも出来る。小生に言わせれば政府も地方行政も医療関係者も必死でコロナ対応に追われている現状を認めてあげたい。デルタ型の変異ウイルスの感染拡大の勢いが止まらない。ワクチン接種も急ピッチで進んでいるが、もどかしい気持ちであろう。恐らくこのコロナ今世紀

今の世に想う

の近代歴史(前世紀のベストと同じように)に残る事案となるであろう。この様なコロナに対して今の時点で絶対的な対応策があるのか、結論的には「ノー」と言わざるを得ないと思う。政治批判もよからうがそこからは何も結果は生まれない。今20才以下30才以下感染率が高いというが、政府・地方行政はいろいろ行動規制をかけているが、要は「お願い」が守られていない事が一番問題である。企業・親・友人が社員・息・知人に対して「行動規制を守ろう」とでなければ国民一人ひとりが失うものが多い、結果として国も失うものが多いという事を知らしめなければいけない。兎に角政府批判ばかりでは何も解決しない。今災害時にボランティア参加者が非常に多い、この事を想うと他人に行動規制を言う事は出来る(真に他人の事を想う心があれば)。そして皆がその気になれば「自己の欲求をおさえて」必ず感染拡大を防げると確信する。

終りに東京オリ・パラ時にコロナ感染者が増えた事は事実であるが、オリ・パラによつて感染者が拡大したのではないと思うのだが、これから先の科学的判断に待とう。今社会は難しい、小生なども少し勉強しなければと思うし、単にマスコミ論調だけに左右されることのないような洞察力・判断力を身につけねばならないと思うのだが……。

Rishabu

社内報 日新

第245号
2021年10月

発行

日新交通株式会社

福岡市南区清水1丁目22-24 TEL(090)541-3168
URL:http://www.nissintaxi.co.jp E-mail:fukuoka@nissintaxi.co.jp

新人紹介



西日本自動車(株)



坂口 誠吾(6月入社)



吉岡 照展(7月入社)



市丸 正博(7月入社)



廣末 義幸(7月入社)



馬見塚 和伸(8月入社)



能見 安彦(8月入社)



祁 立標(8月入社)



平岡 徳大(8月入社)



南 國弘(8月入社)

東部タクシー(株)



神崎 英雄(7月入社)



松岡 千尋(8月入社)



太田 征孝(8月入社)



大園 響(8月入社)



梁川 貴(整備)(9月入社)

日新交通(株)

OL time♡

だいぶん涼しくなってきた今日この頃ですが、これからは台風季節ですね。猛烈な台風がやってくるという予報があり、警戒をしなければと思っています。

毎日、コロナと政治のニュースばかりですが、私にとっては、少し前にあったオリンピックが唯一のニュースでした。ソフトバンクホークスの4選手が選ばれ侍ジャパンの大舞台で大活躍してくれた事が、今年一番の幸せなニュースです。

それぞれのチームで、活躍しているスター選手が集まり、俺が俺がとなるのかなと思いましたが、各選手が自分のやる事を理解して、きっちりプレーをし、ワンチームで戦えた結果が金メダルに繋がりました。甲斐拓也選手は、野村克也さんの教えから、「功は人に譲れ」という格言を大事にしています。生きています中、なかなかできない事ではありますが、私も心に刻んでおこうと思っています。

会社も、侍ジャパンのように、「one for all, all for one」(一人はみんなのために、みんなは一人のために)の精神で頑張れば、厳しい世の中ですが何とかできるかなと思っています。これからもご安全に頑張りましょう。

西日本自動車 総務 日野 友絵

介護便利

超高齢化社会に向けての構想

2025年(令和7年)には、団塊の世代がすべて75歳以上となり、2040年(令和22年)には、団塊ジュニア世代がすべて65歳以上となる。世の中が高齢者であふれる時代がやってきます。我々も年をとり各自が高齢化社会の波に乗りきる手立てを考えなくてはならない時期ではないだろうか。

高齢化にまつわる課題として、認知高齢者の増加。医療介護費の負担増。地域を支える担い手の不足。などがあげられます。単に高齢化だけの問題でなく、現状少子高齢化社会という両局面をむかえている現状である。

2025年問題に対応する為には、これからの社会を担う子どもの育成や子育て世代が安心して生活、働きながら子育てができる制度の充実などが必要不可欠です。

今後の10年・100年先の未来を見据えた企業は若い人材を積極的に採用し専門職としての人材育成に力を注ぐ一方で高齢者の専門知識を持つ方の有効性を若い世代の教育に生かす努力を取り組んでいる企業も見受けられます。

介護業界に限らず元気で活力にあふれた高齢者・若者が活躍でき健康で生きがいを持ち、生き生きと働くことができる魅力ある企業、人員の減少においても機能不全に陥らないような持続可能性をもった仕組みづくりが今後の大きな課題となり生き残りをかけた取り組みが必要であると思います。

日新交通介護事業部 主任 古賀 孝

編集後記

1年延期となった東京オリピック・パラリンピックは、緊急事態宣言下での開催となりました。その中で私の印象に残っているのが、パラリンピックの女子マラソンで金メダルを獲得した道下美里選手です。道下選手は、私と同じ太宰府市在住ということもあって、応援していました。

コロナワクチンの接種も広まり少しは収まりつつではあったのですが、2回接種しても感染したりするので、まだまだ予断を許さない状況です。皆さんも十分な感染防止に努めてください。

日新交通株式会社 F・K